



コピーしてすぐ使える
サンプル満載



はじめての CGI 特集 ウェブ管理術

ホームページの無料サービスや作成ツールが賑わいを見せ、自分のサイトを持つ人が急増している。誰でも持てる時代だからこそ、サイトの特徴をいかに出すかが悩みどころだ。そこで、提案したい。単なるウェブ制作者から一歩飛び出し、「ウェブ管理者」になってみないか。管理者と言っても、サーバー技術云々といった理科系専門技術者の話ではない。本特集には、サイトを持っている人なら誰にでもすぐに役立つサイト運営のTIPSが満載だ。利用者や人気コンテンツの把握からウェブユーザビリティまで、実践すれば視聴率アップも間違いなし！

菅野 哲 + 津田大介 + 若林龍成(ビービッド) + 編集部

Illustration : Tsuchiya Hideru

CGIや便利なサービスでまずは気軽に始めよう

あなたも

「ウェブ管理者」 になれる!

自分のホームページを立ち上げて、自己満足で終わらせるだけなら、訪問者のことを考える必要もなく気ままに更新すればいいだろう。しかし一度立ち上げた以上、多くの人に訪れてもらいたいはずだ。ホームページを見る人の立場で訪れやすい雰囲気を作るというのも、ウェブ管理者への第一歩だ。ここでは、本特集で述べる「ウェブ制作者」と「ウェブ管理者」の違いを確認しておこう。

いままでの私

『ウェブ制作者』

- ・アクセス数が伸び悩んでいる
- ・どんな人が訪れているか興味なし
- ・総数を知るためのアクセスカウンターは付けている
- ・どのコンテンツが人気なのかわからない
- ・レンタル掲示板を利用
- ・過去ログは保存していない（または自分でテキストをコピー）
- ・ファイルの数や量が増えてきて困っている

今日からの私

『ウェブ管理者』

ちょっとした気配りで、サイト作りもラクになるし、訪問者にとっても使いやすいサイトができて上がる。思い当たるフシがあれば、この記事を読んで、すぐに「ウェブ管理者」を目指そう。

訪れている人の環境や動向を把握している

- ➡どこから飛んできたか、どのOSやブラウザを使っているか、訪問時間帯などがわかり、サイトですべきことが理解できる

各ページにアクセスカウンターを付けている

- ➡どのコンテンツが人気なのかわかるので、そこに力を入れやすい

過去ログが自動で作れる掲示板を使っている

- ➡管理がラクなうえ、利用者の動向もわかる

検索サイトに数多く登録している

- ➡アクセス数アップを狙える

画像・音楽用サーバーやミラーサイトなどを利用している

- ➡幅広いコンテンツとつながりやすさで訪問者への気配りができる

ウェブユーザビリティに気を遣っている

- ➡訪問者が見やすいページでリピーターが増える

etc.

訪問者の 利用パターンで 「ニーズ」を捉える

訪問者がいつ訪ねてきたかは、カウンターだけではわからない。アクセスログを活用すれば、ある一定時間にアクセスが集中しすぎているかをチェックできる。また、不正なアクセスがあったときにもアクセスログが役に立つ。訪問者が使っているOSやブラウザの種類を知ること、それに対応したコンテンツが作れるなど、アクセスログの取得や解析はサイト管理には欠かせない。

更新状況や過去ログの作成 など作業の負担を 最小限に抑える

どこのページを更新したかわかるHTMLファイルを作り、更新のたびにFTPソフトを使ってサーバーにアップロードして「What's new」と通知するのは意外に面倒だ。また、サイト内で掲示板を運用している場合、新たな訪問者のためにも過去ログが見られるように用意しておきたい。これらをより手軽に実現するCGIを使って、作業を軽減したい。

ウェブ管理者の 心得

「ウェブを管理」すれば、
サイトが活気づくのは間違いない。
メリット満載だ！

人気のコンテンツを知って 一層力を入れる

訪れてくれる人はあなたのサイトに何かしらの魅力を感じているはず。自分が力を入れているページは実は訪問者が少なく、更新をほとんど行っていない情報ページが人気の場合もある。そういった客観的な人気度を測るにはカウンターが便利だ。より多くのリピーターを獲得するためにも自分のサイトの特徴となるコンテンツを客観的にチェックしてみよう。

幅広い気配りで居心地の よい掲示板にする

訪問者とコミュニケーションを取れる掲示板も、人気サイトとなると嫌がらせの書き込みなどが現れることがある。そういったときには素早い対処が必要だ。なるべく簡単に対処できるに越したことはない。また、訪問者が再び訪れたいと思うようにページデザインを見やすく整理するのもポイントだ。細かい気配りがアクセス数アップにつながる。

サーバーメンテナンスで アクセスしやすくする

訪問者に「ページの読み込みが重い」と思われたら、それだけで訪問の機会が減るのは必至。常日頃からサーバーの状態をチェックし、ファイルの容量にも注意したい。また、サーバーが落ちたときやデータが万一消失したときにも対処できるよう、ミラーサイトを作っておくのも訪問者に対する配慮だ。

一歩ずつ確実にマスターしたい ウェブ管理者の 心がけ

一概にウェブの管理と言っても、その内容は幅広い。以下に、192ページからの本文で詳しく述べている管理術を一覧にした。これらはすべてウェブを管理するうえで心がけたいことだ。どこから始めてもまず役立つのは間違いない。まずは、自分が一番やりたい管理術をピックアップし、1つずつ着実にステップアップしよう。

ウェブ管理の心がけ

内部的な管理

CGIの活用

アクセス解析

- 訪問者の環境チェック (P.192)
- 人気コンテンツチェック (P.193)
- 掲示板 (過去ログ作成) (P.194)
- レンタルサーバー利用 (P.195)

更新作業の簡略化 (P.201)

リンク切れチェック (P.201)

訪問者の意見反映 (P.202)

コンテンツに合ったサーバー選択 (P.203)

訪問者にやさしいウェブサイトデザイン (P.205)

対外的な管理

検索サイトへの効果的な登録 (P.196)

リンク元のチェック (P.197)

掲示板関連

不適切な画像のチェック (P.198)

ブラウザクラッシャーへの注意 (P.200)

参加者限定 (P.199)

外部からの評価検討 (P.204)

マークの意味

192ページから紹介するさまざまな管理術におすすめ度合いのマークを付けてあるので参考にしてほしい。



とにかくおすすめ！
すぐに実践しよう。



知っておくと得な
おすすめ。



達人を目指す人向き
のすすめ。

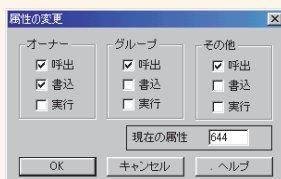
ウェブ管理に必須な CGI 使い方ガイド

CGI導入の確認事項

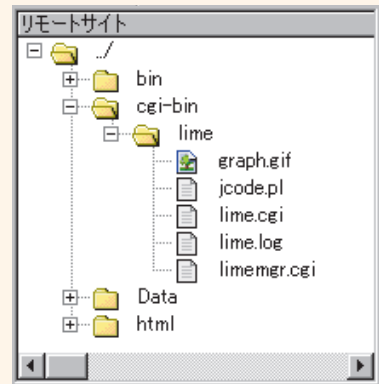
CGIとは掲示板などに代表されるウェブサイトを訪れた人がウェブサーバーとの間で情報をリアルタイムにやり取りできるようにするための簡単なプログラムのことだ。CGIを作るためのプログラム言語のおもなものとして、「C言語」と「Perl」があり、一般的にはPerlが利用されている。Perlを使ってCGIを設置するにはまずPerlを実行するための場所を指す「パス」を確認しておきたい。一般的には「/usr/local/bin/perl」だが、プロバイダーによっては「/bin/perl」となるものもある(表A)。PerlのパスはCGIを「メモ帳」などのテキストエディターで開いたときに1行目に記述されているので、プロバイダーに合わせて変更しよう。また、CGIを設置する際に、プロバイダーによっては、右のようにCGI

用のディレクトリー(ここではcgi-bin)が指定されている場合があるので注意したい。

さらに、CGIを利用するにはパーミッション(使用の権限・属性)を設定できるFTPソフトが必要になる(付属CD-ROMに収録)。FTPのソフトによって設定方法「755」というように数字で指定するFTPソフト(FFFTPなど)とユーザー権限別に「rwx」で指定するFTPソフト(WS_FTPなど)があるので、ヘルプなどをよく読んで確認しておこう。



FFFTPのパーミッション設定画面。サーバーにファイルをアップロードしたら、それぞれのファイルに対してパーミッションの設定を行う。



Panasonic Hi-HOの場合、CGIの設置場所は「cgi-bin」で、それ以外は「html」(public_htmlの場合もある)に入れる。193ページの「Lime Counter」を例に設定した。

CGIが使えるプロバイダー

大手のプロバイダーで自作のCGIが自由に使えるというところは意外と少ない。Iij4U、DTIといったプロバイダー人気調査で上位に来るようなところでもアクセスカウンターなどのプロバイダーが許可した一部のCGIしか使えない。そこで、自作のCGIが利用できるおもなプロバイダーをまとめてみた。CGIが利用できるところでも、さまざまな制限がある場合が多いので、サイトにあるFAQなどを見てどの程度まで自由な運用ができるかを確認しよう。

CGIが使える無料ホームページ

自分の契約しているプロバイダーでCGIが利用できないという場合に、いちいちほかのプロバイダーと契約し直すのは面倒だ。そういう場合は、無料ホームページサービスでCGIが利用できる場所を使うという選択肢もある(203ページ表参照)。ただし、無料ホームページサービスの場合、たいがい広告が自動的に入るようになっている。デザインにこだわる人などにはあまり向かないが、テスト環境を設けたい場合など、状況に合わせて利用すればきっと役に立つはずだ。

一方、本格的にCGIを運用したい人は後述するレンタルサーバー(195ページ参照)を使う手もある。自分で合ったサービスを検討してほしい。

A おもなプロバイダーのCGI対応

cgi-bin自体が別サーバーのこともある

プロバイダー名	自作CGI	CGI設置場所	パス
@nifty		cgi-bin	/usr/local/bin/perl
BIGLOBE		public_html	/usr/local/bin/perl5 ¹
ぶらら		制限なし	/usr/local/bin/perl
Panasonic Hi-HO		cgi-bin	/usr/local/bin/perl
3WEB		public_html	/usr/local/bin/perl
interQ	²	制限なし	/usr/local/bin/perl
WAKWAK		cgi-bin	/bin/perl
inter.net-リムネット接続サービス		public_html	/usr/local/bin/perl
U-netSURF		cgi-bin	/usr/local/bin/perl5 ³
ドルフィン・インターネット	⁴	cgi-bin	/usr/local/bin/perl
FREECOM		public_html	/usr/local/bin/perl
コアラ		cgi-bin	/usr/local/bin/perl

1 Perlのバージョンやサーバーの仕様で異なる
2 MEMBERS会員のみ

3 Perlのバージョンで異なる
4 プランA、プランB、プランCのみ

HTMLの「パス」の指定に注意!

「パス」とはファイルがどこにあるのかを明確に記述するためのもので、「絶対パス」(フルパス)と「相対パス」がある。絶対パスとは例のようにサーバーのドメイン名からファイルに到達するまでのURLすべてを記述したもの。相対パスとは現在使用しているファイルやフォルダー(ディレクトリー)を基準として、呼び出すファイルがどこにあるのかを例のように表示したものだ。通常は相対パスの利用が多いが、@niftyのようにCGIを専用のディレクトリーに入れなければ動作しない場合は、絶対パスで指定しなければならない。また、相対パスはCGIスクリプトの初期設定によっては、指定するファイルの先頭に「./」を付けないと動作しないことがあるので注意しよう。

```
[public_html] index.html これを基準にする
[cgi-bin] sample.cgi
AAAAAAAAA
```

(絶対パスの例)

```
http://www.dummy.net.co.jp/cgi-bin/sample.cgi
```

(相対パスの例)

```
../cgi-bin/sample.cgi
```

```
./ 同じディレクトリーを意味する
../ 1つ上の階層のディレクトリーを意味する
```

その訪問者の動向や特徴を知りたい!

どの時間帯にどのような環境の人が自分のサイトを訪れているのか。利用者の動向を知れば、その環境や好みに応じてサイトを作ることもできる。ここではアクセス解析などの、訪問者の統計をとるCGIを紹介しよう。 菅野 哲

訪問者の環境をチェック

自分のサイトの訪問者がどこのサイトから訪れているかや利用ブラウザなどのアクセス環境を知ることによって、たとえばFlashなどの動くページが問題なく見られるかといったサイト作りの目安にできる。継続的に利用者の動向をチェックして統計をとって、よりよいサイト作りに反映しよう。

表示できるもの

- ・アクセス曜日・時間帯・リンク元
- ・解像度・ホスト名またはIPアドレス
- ・ブラウザの種類・OS

report.cgi

1行目 #!/usr/local/bin/perl
利用しているプロバイダーのPerlのパスに変更する。Perlのバージョンは5。

replist.cgi

1行目 #!/usr/local/bin/perl
利用しているプロバイダーのPerlのパスに変更する。Perlのバージョンは5。

23行目 \$pass = '';
'の間に管理用パスワードを設定する。使えるのは「abc123」など半角の英数字のみ。

access.ini

17行目 \$title = 'Access Report';
解析リストのタイトル。動作には関係ないのでとりあえず初期値のままでOK。

20行目 \$site = '';
アクセス解析の対象となるホームページの名称に変更する。「My Homepage」でもなんでもいい。

23行目 \$return = '';
表示した解析リストで「戻る」をクリックしたときの戻り先のURLを設定する。アクセス解析の対象ページに戻るのが一般的だ。

26行目 \$max = '1000';
最大ログ保持数。これを越えると古い順に削除されるが、あまり大きくするとログのファイルサイズが大きくなるので注意。

29行目 \$new_count = '1';
アクセスカウンターの初期値。特に変更しなくてもいい。

34行目 \$lockkey = 0;
ファイルロックを設定する。このままだとアクセスログのデータが破損する恐れがあるので、値を変更しよう。おススメは「\$lockkey = 1;」(symlink 関数を利用してファイルロック)。symlink 関数でのファイルロックを禁止しているサーバーでは「\$lockkey = 2;」(open 関数を利用してファイルロック)にする。

39行目 \$access_check = '1';
cookieを利用し、同じユーザーが連続してすぐに記録しないようにできる。初期値だと最後のアクセスから1分を越すまで記録をしない。このままでOK。

44行目 \$host_check = 0;
同一ホストからの連続したアクセスができないようにチェックする。初期値のままでOK。

49行目 \$get_remotehost = 0;
ホスト名を取得するかどうかの指定をする。初期値のままでOK。

① CGIを上記のURLまたは付属CD-ROMからハードディスクにコピーし、圧縮ファイルはLhasa (CD-ROMに収録) などを使って解凍しよう。収録されているファイルは▲になる。

② CGIスクリプトを自分の利用している環境に合わせて左下のように書き換える。ウィンドウズ付属の「メモ帳」などのテキストエディターを使用して変更しよう。「access.ini」の34行目は、初期値の「\$lockkey = 0;」では、アクセスログデータの破損を防ぐファイルロック処理を行わないので、ファイルロック処理をするように変更したい。



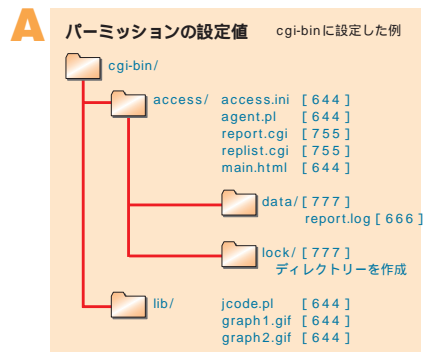
【access cgi ver.1.10】

作者： 緋 [himura]

Jump www.din.or.jp/~himura/at-works/



<CD-ROM ▲>
Magnavi Ip0105 Cgi access access_1.lzh
Magnavi Ip0105 Cgi access readme.lzh (説明)



③ アクセス解析を行いたいHTMLファイル(自分のサイトのトップページなどに、右のタグを貼り付ける。プロバイダーの事情で設置するディレクトリーを変えた場合は、「replist.cgi」のパス(赤字の部分)を変更すること。

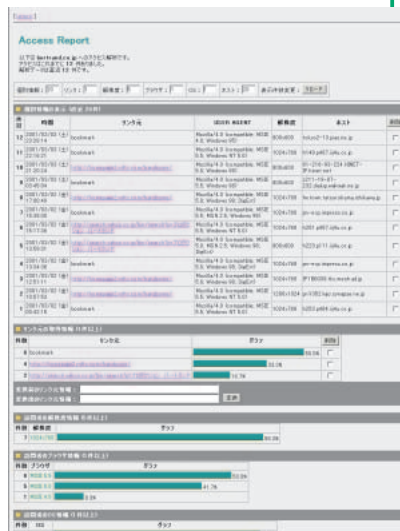
```

<script type="text/javascript" language="JavaScript">
<!--
document.write("<img src='cgi-bin/access/report.cgi?'");
document.write(screen.width);
document.write("&");
document.write(screen.height);
document.write("&");
document.write(document.referrer);
document.write("<div style='width:1px height:1px alt='' />");
// -->
</script>
  
```

④ CGIとHTMLファイルをサーバーにアップロードする。CGIは▲を参考にパーミッション(属性)の設定を変更する。「data」などのフォルダー(ディレクトリー)のパーミッションも忘れずに変更しよう。

⑤ ブラウザーから「replist.cgi」にアクセスしてみよう(「http://www.xxxx.xxx/cgi-bin/access/replist.cgi」のように入力する)。無事に作動していれば、パスワードの入力画面が表示される。

⑥ 「replist.cgi」の23行目で設定したパスワードを入力すれば、右のようにアクセス解析の画面が表示される。曜日や時間帯別のアクセス数はもちろん、訪問者のブラウザの種類や解像度の情報もわかる。



カウンターを付けて 人気コンテンツをチェック



【Lime Counter】

作者：KENT

Jump www.kent-web.com



<CD-ROM A>

Magnavi Ip0105 Cgi KENT lime.lzh

「自分のサイトのどのコンテンツが人気なのか？」という疑問を解決するためには、ページごとのアクセス数をカウントしてくれるCGIが頼りになる。

2 CGIスクリプトを自分の利用している環境に合わせて書き換える。ウィンドウ付属の「メモ帳」などのテキストエディタを使用して、以下の箇所を変更しよう。特に、「limemgr.cgi」の32行目の戻り先のURLがこのCGIから見たファイルの場所（相対パス）での指定になっている点に注意！

lime.cgi

1行目 #!/usr/local/bin/perl
利用しているプロバイダーのPerlのパスに変更する。

67行目 \$lockkey = 1;
アクセスログデータの破損を防ぐためファイルロックを設定する。初期値のままでもOKだが、symlink 関数でのファイルロックを禁止しているサーバーでは「\$lockkey = 2;」（open 関数を利用してファイルロック）にする。

limemgr.cgi

1行目 #!/usr/local/bin/perl
利用しているプロバイダーのPerlのパスに変更する。

20行目 \$pass = '0123';
管理用パスワードを設定する。使えるのは「abc123」など半角の英数字のみ。

32行目 \$backurl = './index.html';
アクセス集計一覧の表示部からの戻り先を「./index.html」のようにこのファイルから見た場所（相対パス）で指定する。

1 CGIを上記のURLまたは付属CD-ROMからハードディスクにコピーし、圧縮ファイルはLhasa (CD-ROM A)に収録)などを使って解凍しよう。収録されているファイルはAになる。



パーミッションの設定値

cgi-binに設定した例

cgi-bin/

lime/

```
[ 777 ] ディレクトリーを作成
lime.cgi [ 755 ]
lime.log [ 666 ]
limemgr.cgi [ 755 ]
jcode.pl [ 644 ]
graph.gif
```

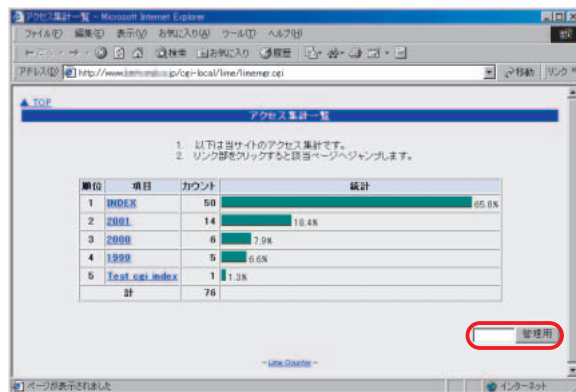
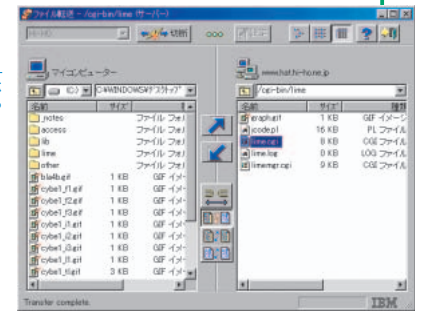
3 アクセス数をカウントしたいすべてのHTMLファイルに以下のタグを追加する。識別番号はページごとに違う番号を設定する。

```
<IMG SRC="パス/lime.cgi?page=識別番号&name=ページ名&hp=ウェブページのURL">
```

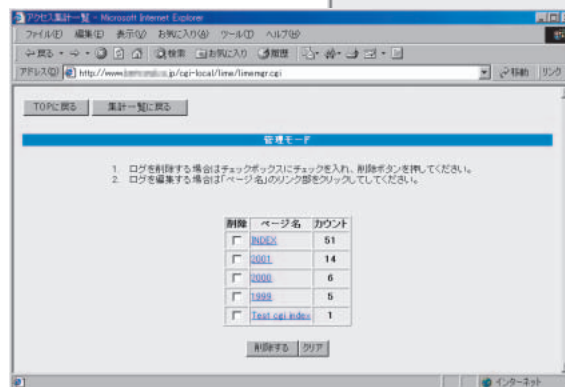
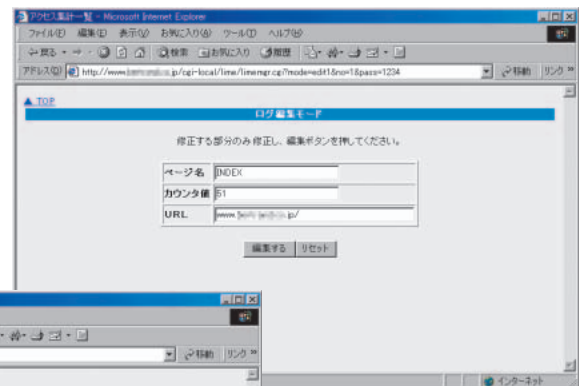
例：

```
<IMG SRC="cgi-bin/lime/lime.cgi?page=1 &name=DIARY&hp=http://www.xxx.xxx/ user/" WIDTH=1 HEIGHT=1>
```

4 CGIとHTMLファイルをサーバーにアップロードする。CGIはAを参考にパーミッションの設定を変更する。右の画面は「ホームページ・ビルダーV6」に付属のFTPソフト。



5 ブラウザーで「limemgr.cgi」にアクセスする（「http://www.xxx.xxx/cgi-bin/lime/limemgr.cgi」のように入力すると、集計結果が表示される。各ページのアクセス数がグラフで一覧できるので、人気コンテンツが一目瞭然だ。



6 6の画面で、管理用パスワードを入力して管理モードに入った例（左）。管理モードではログの削除やログをとっているHTMLファイルのページ名、カウンタ値、URLの修正が行える（上）。

掲示板の利用者を アクセスログでチェック



【C-BOARD】

作者：T.Kimata

Jump www.nk.rim.or.jp/~t_kimata/cgi/



<CD-ROM A>

Magnavi Ip0105 Cgi C-BOARD c-board320g.zip

前ページまでに紹介したアクセス解析のCGIは、基本的にHTML ファイルのアクセス数を解析するためのものだ

CGIを使ったチャットや掲示板などへのアクセス数を調べたい場合は、最初からアクセス解析機能を持つ掲示板やチャットを利用するのが簡単だ。ここでは、その掲示板を紹介する。

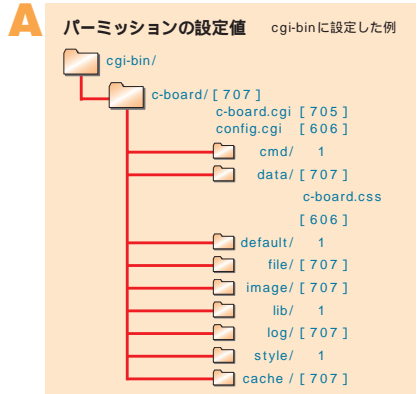
CGIスクリプトを自分の利用している環境に合わせて書き換える。Windows付属の「メモ帳」などのテキストエディターを使用して、以下の箇所を変更しよう。このCGIは、サーバーにアップロードしてからブラウザ上でほとんどの設定を行うため、ここで変更するのは、「c-board.cgi」のPerlのパスのみと非常に簡単だ。

c-board.cgi

1行目 #!/usr/local/bin/perl
利用しているプロバイダーのPerlのパスを変更する。
perlのバージョンは5.0.05.03以上のもの。

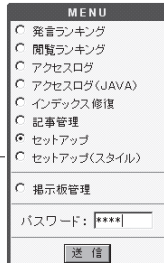
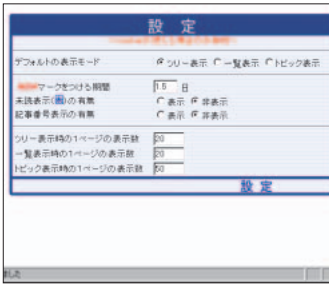
CGIをサーバーにアップロードする。CGIはAを参考にパーミッションの設定を変更する。

CGIを上記のURLまたは付属CD-ROMからハードディスクにコピーし、圧縮ファイルはLhasa (CD-ROM A)に収録)などを使って解凍しよう。収録されているファイルはAになる。



うまく動作しない場合は[705] [755] [606] [666] [707] [777]に変更のこと
1 ディレクトリーの作成のみ。パーミッションの変更は不要

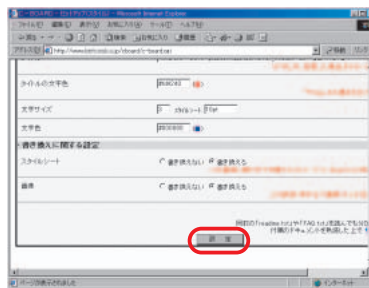
設定画面の右下の「管理者用」をクリックをする。MENU画面(右)の「セットアップ」にチェックが付いた状態で、パスワード欄にあらかじめ設定されているパスワード「pass」(初期値)を入力し、送信ボタンを押す。



ブラウザで「c-board.cgi」にアクセスし(「http://www.xxx.xxx/cgi-bin/c-board/c-board.cgi」のように入力する)メニューバーの「設定」をクリックする(下画面)。



セットアップ画面の一番下にある「パスワードに関する設定」でパスワードを変更し、「設定」を押す。さらに、MENU画面で「セットアップ(スタイル)」にチェックを付けて「送信」を押す、下の画面で何も変更せずに「設定」をクリックすれば初期設定がすべて完了する。



ツリー表示と一覧表示を切り替えられる高機能な掲示板ができる(下画面)。アクセス解析も非常に詳細なデータを得られる。また、Javaを利用したグラフも表示できる(右画面)。過去ログをHTMLで記録できる機能も非常に便利だ。



公開中の掲示板で アクセスをチェック



現在使用している掲示板やチャットのCGIにアクセスカウンターを付けることもできる。

設置方法は、カウンターを付けたいCGIにスクリプトを2か所追加するだけなのだが、追加する場所の見極めが必要なので、一般のCGIよりも難易度は高い。

CGIの扱いに慣れている人は、こちらも検討してみるといいだろう。設置法などの詳細はウェブで確認してほしい。

【keico】

作者：千葉園ネット

Jump www.chibaken.net/cgi_s/keico/



<CD-ROM A>

Magnavi Ip0105 Cgi keico keico_pl.txt

ホスティングでより簡単に アクセスの詳細をチェック



【ホスティングサービス】

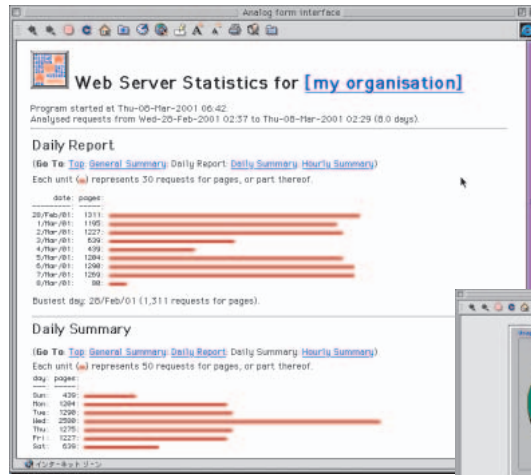
(例) CPI
kJump www.cpi.ad.jp

ほかにも多くのホスティングサービスプロバイダーがアクセスログ解析サービスを提供している(表参照)。

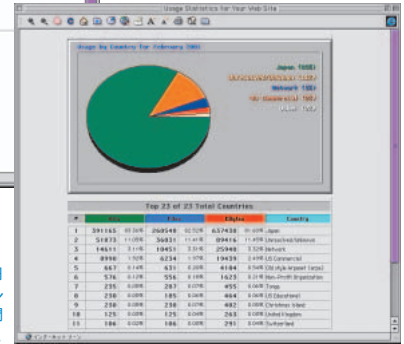
ホスティングサービスプロバイダーが提供するレンタルサーバーを利用している場合は、アクセス解析のCGIを使わなくても、自分のサイトへのアクセス数を参照できるサービスが用意されていることが多い。

契約プランにもよるが、たとえば「CPI」の場合は、もっともリーズナブルなパーソナルプラン(月4,500円)でもアクセスログの解析サービスを受けられるので、自分でCGIを導入するのが面倒な人にはおすすめです。

①ここではCPIを例に紹介する。用意されているアクセスログ解析サービスは、シンプルなものとグラフィカルなものとの2種類が用意されている。アクセスログ解析サービス「Analog」は、テキストと棒グラフによる表示で見た目はいたってシンプルだが、リアルタイムにその瞬間のログが見られるのが特徴だ。



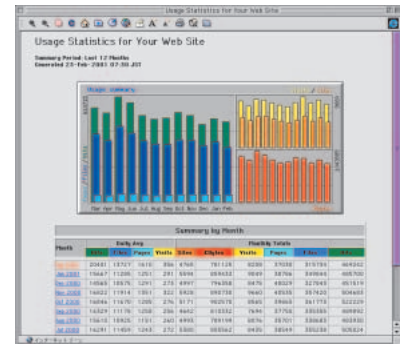
②アクセスログ解析サービス「Webalizer」は、円グラフや棒グラフなどのわかりやすいグラフィカルな表示が特徴だが、当日のログは見られず、1週間単位といったまとまった期間用の解析プログラムだ。



おもなホスティングサービスプロバイダー

サービス名	1	2	3	4	5
AIRインターネットサービス	www.air.ne.jp				
ASJホスティングサービス	www.asj.ne.jp				3
DIONサーバホスティングサービス	www.dion.ne.jp/fyouji/				
CPI	www.cpi.ad.jp				
HIP	www.hip.ne.jp/web-hosting/			4	4
iSLE(アイル)	home.isle.ne.jp				
Rapidsite	rapidsite.co.jp				
So-netサーバホスティングサービス	www.so-net.ne.jp/business/service/host/				
WebARENA	web.arena.ne.jp/suite/				
ファーストサーバ	www.firstserver.ne.jp				
パークネット	www.parknet.co.jp				

1 ウェブサイトに解析ツールの詳細や表示例が掲載されているプロバイダー
2 ログ分析ツール(MkStatsなど)
3 ASエコーミーは不可
4 契約サービスにより解析プログラムの種類と生ログ収集の可否が異なる



③このほか、ブラウザから生ログ(アクセスした人1件ごとの訪問日時やIPアドレスなどの情報)を見ることもできる。生ログは1か月ごとに圧縮されて3か月分は保存されるので、適宜ダウンロードして自分のパソコンのハードディスクで保存しておこう。



ホスティングサービスプロバイダーで 自分のドメインを取得しよう

レンタルサーバーを利用するのであれば、「www.名前.com」などのように自分のドメインを取得することも考えたい。法人だけでなく、個人や任意団体でも取れるドメインも多数ある。書類の作成から実際にそのドメインにアクセスできるまでのセットアップまで個人でやると面倒な手続きも、一括してホスティングサービスプロバイダー側で行ってくれる。これなら技術的な知識がなくても、気軽

に自分のドメインでサイトが持てる。ただし、ホスティングサービスプロバイダーでは、一部を除き原則としてダイヤルアップの接続サービスは行っていないので、いままでの接続プロバイダーとの契約は続行することになる。ウェブ管理者の次のステップとして、独自ドメインの取得とアクセス解析ほか多様なサービスを提供するレンタルサーバーの活用もぜひ検討してみよう。

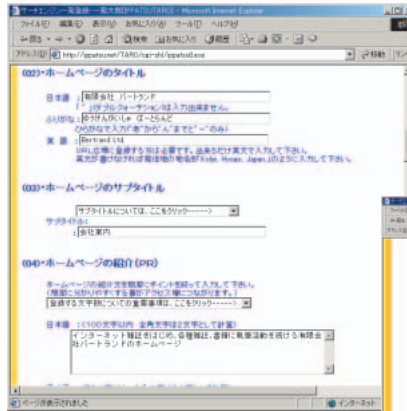
検索サイトに登録されたい!

不特定多数の人に自分のウェブサイトを発見してもらう最適な手段が検索サイトだ。ここでは検索サイトの有効な登録方法や検索にまつわる便利なサービスを一挙に紹介しよう。 菅野 哲

検索サイト一括登録

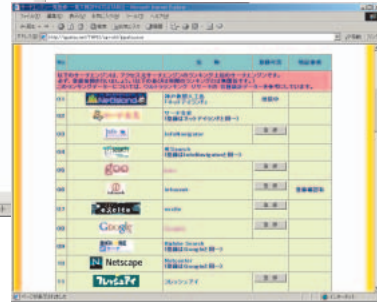
検索サイトへの登録は、サイト管理者が自分で行うことが多い。しかし、多数の検索サイトに1つずつ登録依頼を出しては効率が悪いため、一括で登録してくれるサービスを活用しよう。

①「一発太郎」を利用するには、登録(無料)が必要だ。まずメールアドレスを入力してメールアドレスのチェックを受ける。このため、登録にはメールの自動レスポンスまでの時間がかかる。登録が終わったらサイト名やURL、紹介文など自分のサイトの情報を入力する。



【一発太郎】
http://ippatsu.net/TARO/

②入力した情報を確認したら、あとは登録したい検索サイトの「登録」ボタンを押すだけ。ほとんどの検索サイトでは追加の入力事項もなく、自動的に登録依頼が終了する。

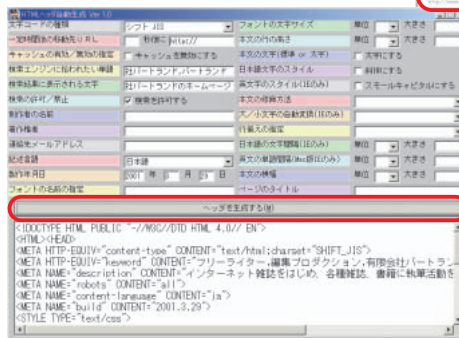


検索にヒットしやすくする

infoseekなどのロボット型の検索エンジンを使った検索サイトでは、HTMLヘッダーのMETAタグからサイトの内容を判断しているところが多い。METAタグに適切な用語を入力することにより、管理者の意図したおりにヒットさせられるのだ。

そこで、HTMLヘッダーを生成するフリーソフトウェアを使って、効果的なMETAタグを作成してみよう。ただし、ここであまりにも多数の用語や無関係な言葉を登録すると、訪問者に対して悪い印象を与えかねないので注意したい。②の画面のように表示されるので、自分のホームページを適切に表示するキーワードを選んで記入しよう。

①ソフトをダウンロードしてLhasa(CD-ROM)に収録などで解凍すると「Html Head.exe」というファイルが現れる。これをダブルクリックすると、プログラムが起動する。「検索エンジンに拾われたい単語」に、キーワードを半角コンマで区切って入力する。「検索結果に表示される文字」に、自分のサイトの内容をわかりやすく記入して、「ヘッダを生成する」ボタンを押す。



【HTMLヘッダ自動生成】
作者：J.S.BUFFER
http://www2.tokai.or.jp/j.s.b/

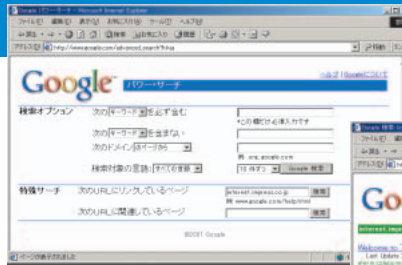


②生成したヘッダー(左下)をHTMLファイルに貼り付ける。画面は実際にinfoseekでヒットした例。サイト管理者が記入した適切な説明文が掲載されるので、訪問者の獲得率も大きくアップする。

ヘッダー

どこからリンクされているかを チェック

前述のアクセス解析CGIを使えば、自分のサイトにどこからリンクが張られているかは見当がつくが、もっと素早くリンク元を調べることができる。「Google」の「検索オプション」の「特殊サーチ」を使えば、リンク元が一覧表示される。



① 特殊サーチの「次のURLにリンクしているページ」の検索窓に調べたいサイトのURLを入力する。なお、Googleのトップページの検索窓に「link:internet.impress.co.jp」のように、「link:」に続けて入力しても同じ結果が得られる。



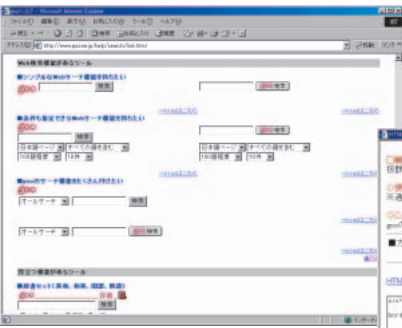
【Google】
www.google.com



② 本誌のサイトにリンクを張っているサイトを検索してみた。管理者の知らないサイトで紹介されていて、しかも褒められていたりすると、まさにウェブ管理者冥利に尽きる。

サイトに検索窓を付ける

自分のサイトに検索窓を付ければ、訪問者に付加価値を与えられ、便利に利用できる。HTMLタグをコピー＆ペーストするだけで簡単に設定できるので、気軽に使ってみよう。



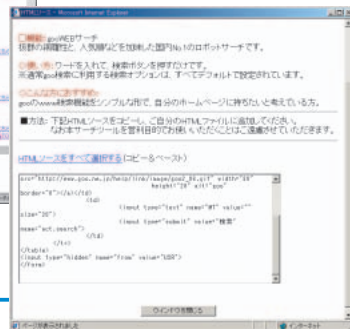
① 画面は「goo」の例だが、どの検索サイトが提供する検索窓も設置は簡単。好みの検索サイトで貼り付けたい検索窓を選んだら、「htmlはこちら」をクリックして、そのHTMLタグを自分のサイトにコピー＆ペーストするだけだ。



【Google】
www.google.com
(トップページ Googleについて)

【infoseek】
www.infoseek.co.jp
(トップページ リンクキット)

【goo】
www.goo.ne.jp
(トップページ ヘルプ)



② 「goo」の場合は検索以外にも辞書機能や企業情報検索も自分のサイトに貼り付けられるので、さらに付加価値アップを狙える。

ウェブ管理者の声①

テレビドラマデータベース

www.tvdrama-db.com

これまでオンエアされたテレビドラマの大半を集めた全文検索データベースをはじめ、テーマ別の5つのドラマ掲示板など、ドラマ情報が満載のサイトです。

映画に比べると軽く見られがちなドラマの地位を向上させたくて、いままで放送されたドラマのデータをこつこつ収集していました。その後、プロバイダーが提供する無料ホームページ作成サービスを使ってデータを公開したのがこのサイトの始まりです。公開すると、どんどんいろんな人からメールが届くようになり、これがまた非常におもしろいんです。メールでもらった意見を自分の中だけにとどめておくのも惜しいので、掲示板を作りました。「いろんな人に自由に意見を語ってもらおう」場です。

古崎康成さん



継続するうえで心がけているのは、「無理をしない」ということです。毎日の更新は精神的につらくなりますから、気が向いたときに軽く更新すればいいという気持ちで運営しています。ホームページのデザインも、更新の負担にならないよう、非常にシンプルにしてあります。

掲示板の管理がやはり大変ですが、できるだけこの掲示板が「管理されている」という印象を持たれないように、誰でも書き込める雰囲気作りにも努めています。

この2月には独自ドメインも取得しました。ログの分析をしてサイト作りを生かすところまではまだ至っていないので、今後は手軽に使えるそうしたサービスも使ってみたいです。

その不適切な投稿をチェックしたい!

サイトに人気が出てくると、掲示板に不適切な投稿をしたり画像を貼り付けたりする「掲示板荒らし」などの被害に遭うこともある。「荒らしは無視」が鉄則だが、状況によってはマメに掲示板をチェックするなど自衛手段も考慮しよう。 菅野 哲

画像はアップする前にチェック

訪問者が画像や音のデータをアップロードできる掲示板は活気ついて盛り上がるものだが、いたずらで不快な画像などを貼られてしまう可能性がある。

このCGIには、アップロードされた画像を管理人がチェックして、問題のないものだけを公開する機能があるので安心だ。

clip.cgi

1行目 #!/usr/local/bin/perl
利用しているプロバイダーのPerlのパスを変更する。

69行目 \$pass = '0123';
管理用パスワードを設定する。使えるのは「abc123」など半角の英数字のみ。

72行目 \$max = 30;
表示できる最大コメント数。これを超えると、記事と画像ファイルは古い順に削除される。

75行目 \$home = './index.html';
掲示板で「戻る」を押したときに表示される戻り先のURLを指定する（http://-で指定してもいい）。掲示板を呼び出したページに戻るのが一般的。

94行目 \$lockkey = 0;
アクセスログの破損を防止するために、ファイルロックを設定する。おススメは「\$lockkey = 1;」（symlink関数を利用してファイルロック）、symlink関数でのファイルロックを禁止しているサーバーでは「\$lockkey = 2;」（open関数を利用してファイルロック）にする。

103行目 \$imageCheck = 0;
管理者による画像などのデータチェック機能を利用するため、「\$imageCheck = 1;」に必ず変更する。

108行目 \$postMode = 0;
管理者だけが投稿できる掲示板にするならば「\$postMode = 1;」に変更するが、一般の掲示板では初期値のままOK。

111行目 \$tagkey = 0;
タグの書き込みを許可するといざらされる恐れがあるので、とりあえず初期値（タグ不許可）のままOK。

117行目 \$mailing = 0;
投稿があったときにメールで通知する機能。初期値はメール通知機能が無効になっている。自分の投稿記事もメール通知するならば「\$mailing = 1;」、他人の投稿記事のみメール通知するならば「\$mailing = 2;」に変更する。

120行目 \$sendmail = '/usr/lib/sendmail';
利用しているプロバイダーのsendmailを設定する場所（パス）を変更する。プロバイダーのサイトのFAQなどで設定値を確認しておく。

123行目 \$mailto = 'xxx@xxx.xxx';
投稿があったときにメールで通知する場合、その通知先のメールアドレスを指定する。

160行目 \$imgDir = './img/';
アップロードされた画像の保存先ディレクトリ。初期値のままOK。

164行目 \$imgUrl = 'http://www.xxx.co.jp/clip/img/';
160行目の画像の保存先ディレクトリをURLで指定する。

168 ~ 182行目 \$gif = 1; など
アップロードを許可する画像形式を「\$gif = 1;」「\$jpeg = 1;」のように変更する。「1」は許可で、「0」が不許可。

186行目 \$cgi_lib\$maxdata = '102400';
一度に投稿できるデータ容量の最大サイズをバイト数で指定する。初期値のままOK。

190行目 \$maxW = 550;
画像ファイルの最大表示の大きさ（横幅）好みに合わせて変更しよう。

191行目 \$maxH = 200;
画像ファイルの最大表示の大きさ（縦幅）好みに合わせて変更しよう。



【Clip Board】

作者：KENT

Jump www.kent-web.com



<CD-ROM >
Magnavi Ip0105 Cgi KENT clip.lzh

1 CGIを上記のURLまたは付属CD-ROMからハードディスクにコピーし、圧縮ファイルはLhasa（CD-ROMに収録）などを使って解凍しよう。収録されているファイルはAになる。

A

パーミッションの設定値 cgi-binに設定した例

```
cli-bin/  
├── clip/  
│   ├── [ 777 ] ディレクトリーを作成  
│   ├── clip.cgi [ 755 ]  
│   ├── clip.log [ 666 ]  
│   ├── jcode.pl [ 644 ]  
│   └── cgi-lib.pl [ 644 ]  
└── img/ [ 777 ] ディレクトリーを作成  
    ├── home.gif  
    ├── clip.gif  
    └── soon.gif
```

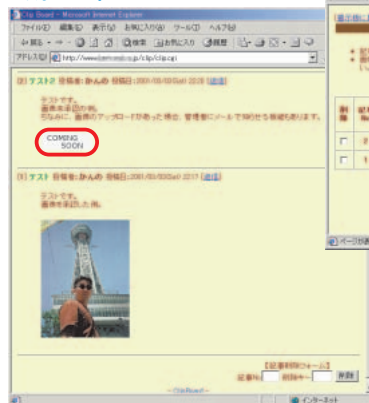
2 CGIスクリプトを自分の利用している環境に合わせて書き換える。Windows付属の「メモ帳」などのテキストエディターを使用して、左のように変更しよう。

3 CGIをサーバーにアップロードする(右)。CGIはAを参考にパーミッションの設定を変更する。ファイル数も少なく、特に難しいところはない。imgディレクトリーの作成とパーミッション変更を忘れないように。画面は「ホームページ・ビルダーV6」に付属のFTPソフト。

4 ブラウザから「clip.cgi」にアクセスしてみよう（「http://www.xxx.xxx/cgi-bin/clip/clip.cgi」のように入力する）。掲示板が表示されるので、画像をアップしてみる。

5 アップロードされた画像のチェックは掲示板の「管理モード」で行う(下)。内容がOKならば、「画像許可」の欄にチェックを付けて「送信する」を押す。

6 管理人のチェックが済んでいないデータは、下のように「COMING SOON」と表示される。



パスワードを使った 会員制のページを作る



【COSMO GATE】
作者：KENT
www.kent-web.com



<CD-ROM 図>
Magnavi Ip0105 Cgi KENT gate.lzh

一般に公開せず友達同士だけで使う掲示板やアルバムのように、サイト（一部または全部）を特定の人だけが参加できるようにもできる。会員制のサイトとして、パスワードとIDを知っている人だけがHTMLやCGIにアクセスできるのだ。

② CGIスクリプトを自分の利用している環境に合わせて書き換える。ウインドウズ付属の「メモ帳」などのテキストエディターを使用して、以下の箇所を変更しよう。40行目は、FTPでログインしたところがルート「/」で、public_htmlがないプロバイダーの場合は、パスワード規制をかけるHTMLページ（隠しファイルしておく）をこのCGIから見たファイルの場所（相対パス）で指定する。なお、隠しファイルはどこに置いても構わないが他人がブラウザから直接この隠しファイルのURLをアクセスできないようにファイル名には十分注意しよう。

```
gate.cgi
1行目 #!/usr/local/bin/perl
利用しているプロバイダーのPerlのパスに変更する。

40行目 $goto = "/home/kent/private_html/secret.html";
隠しファイル（パスワードによる入室制限を行うHTML、CGI）の設置場所（パス）。HTMLの場合は、/からの絶対パスで記述。CGIの場合は、http://からのパスに変更する。なお、FTPでログインしたところがルート"/"になる仕様のプロバイダーの場合は、HTMLを自分から見た場所（相対パス）で指定する。

43行目 $kind = 0;
隠しファイルの種類（HTML=0、CGI=1、その他=2）。

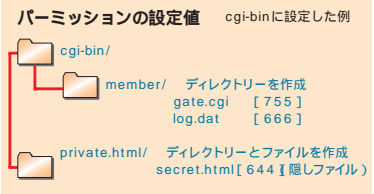
55行目 $logkey = 1;
アクセスログの破損を防ぐため、ファイルロックを設定する。初期値のままOKだが、symlink関数でのファイルロックを禁止しているサーバーでは「$lockkey = 2;」（open関数を利用してファイルロック）に変更する。

58行目 $pass = '0123';
管理用パスワードを指定する。使えるのは「abc123」など半角の英数字のみ。

72行目 '@UserID = ('taro', 'jiro', 'saburo', 'shiro');
入室するためのIDをコマンドで区切って記入する。（次の行のパスワードとペアになる）73行目と対応しており、メンバー分用意するか1つだけ設定して、それを共有してもいい。

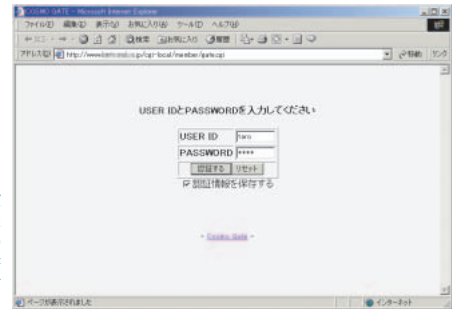
73行目 '@UserPW = ('1111', '2222', '3333', '4444');
入室するためのパスワードをコマンドで区切って記入する。（前の行のIDとペアで）この場合、ID taroのパスワードは1111、jiroは2222の組み合わせになる。
```

① CGIを上記のURLまたは付属CD-ROMからハードディスクにコピーし、圧縮ファイルはLhasa（CD-ROM図）に収録）などを使って解凍しよう。収録されているファイルはAになる。



③ CGIとHTMLファイルをサーバーにアップロードする。CGIスクリプトはAを参考にパーミッションの設定を変更する。

④ ブラウザーで「gate.cgi」にアクセスする（「http://www.xxx.xxx/cgi-bin/member/gate.cgi」のように入力すると、このようなIDとパスワードを入力する画面になる。なお、IDを使わずパスワードのみでの認証もできるがHTMLファイルの書き換えが必要になるので、詳細は作者のサイトを参照してほしい。



No.	日時	USER ID	ホスト名	ブラウザ
1	2007/03/05-01:48:50	user	2101.46.114.140/Mozilla/4.0/compatible; MSIE 5.5; Windows NT 5.0	
2	2007/03/05-00:28:41	user	2101.46.114.140/Mozilla/4.0/compatible; MSIE 5.5; Windows NT 5.0	
3	2007/03/05-00:28:17	user	2101.46.114.140/Mozilla/4.0/compatible; MSIE 5.5; Windows NT 5.0	
4	2007/03/04-00:02:28	user	2101.46.114.140/Mozilla/4.0/compatible; MSIE 5.5; Windows NT 5.0	
5	2007/03/04-00:04:12	user	2101.46.114.140/Mozilla/4.0/compatible; MSIE 5.5; Windows NT 5.0	
6	2007/03/04-00:48:00	user	2101.46.114.140/Mozilla/4.0/compatible; MSIE 5.5; Windows NT 5.0	
7	2007/03/03-23:28:29	user	2101.46.114.140/Mozilla/4.0/compatible; MSIE 4.0; Windows 95	
8	2007/03/03-23:28:26	user	2101.46.114.140/Mozilla/4.0/compatible; MSIE 5.5; Windows NT 5.0	
9	2007/03/03-23:25:04	user	2101.46.114.140/Mozilla/4.0/compatible; MSIE 4.0; Windows 95	
10	2007/03/03-23:23:16	user	2101.46.114.140/Mozilla/4.0/compatible; MSIE 4.0; Windows 95	
11	2007/03/03-23:22:56	user	2101.46.114.140/Mozilla/4.0/compatible; MSIE 5.5; Windows NT 5.0	
12	2007/03/03-23:22:01	user	2101.46.114.140/Mozilla/4.0/compatible; MSIE 5.5; Windows NT 5.0	
13	2007/03/03-23:19:10	user	2101.46.114.140/Mozilla/4.0/compatible; MSIE 4.0; Windows 95	

⑤ ブラウザーで直接「http://www.xxx.xxx/cgi-bin/member/gate.cgi?mode=admin」と入力してアクセスすると、管理モードになる。「gate.cgi」の58行目で設定した管理用パスワードを入力すれば、アクセスログや、ID別のアクセス回数の統計を参照できる。

ウェブ管理者の声②

東京小さな旅

www.asahi-net.or.jp/~by3s/fet/

四季折々の東京のちょっとした小さな旅の紹介をコンセプトにしています。それを、商業誌や情報誌とまったく違ったコンセプトで私自身の体験をもとに提供しています。

このサイトを見られている方と同じ目線に立った情報提供を目指しており、そこだけ読んでも楽しめるような充実したインデックス、軽くてきれいな画像（あくまでも文の補足で、やたらと増やさずに大きさも統一）、読んでもらいやすい肩の凝らない内容と文章、更新とコンテンツの定期的充実の4点を常に心がけています。文章については、商業ベースでは言えないような、少しだけ主観を交えた内容にしています。たとえば、その場所に行くだけの内容ではない場合ははっきりそう伝えるようにしています。

笛田進吾さん



「パーソナライズとリコメンド」を生かすようにも心がけています。そのために、メールでの更新のお知らせやモードページを開設しました。外出先でも確認できるようにモバイルとの連携も図っています。

個人ページのアクセス数を増やす秘訣は、継続と決して自己満足にならないことだと思います。これを自分が見たらどう思うかと、見る人の立場で冷静に考えれば答えは出てくると思います。それと広報活動もある程度大切です。検索サイトへの的確な登録が重要だと思います。今後はブロードバンドに対応したコンテンツを研究したいですね。

URLの安全確認をする

掲示板に書き込まれたURLをクリックして飛んでみると、パソコンのOSが固まって動作が止まってしまうことがある。これは、誰かが故意にいたずらしたもので、ブラウザ（ブラウザークラッシャー）と呼ばれる。パソコンの動作が不安定になるため、こういったブラウザへの対策も考えておこう。

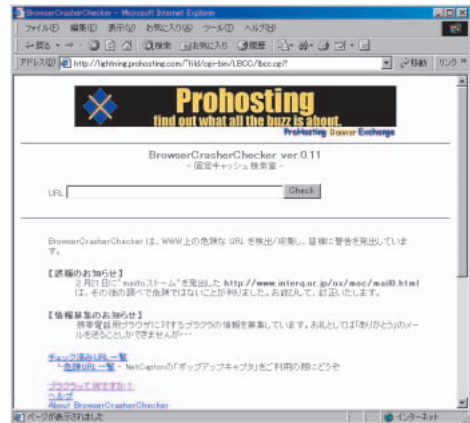
掲示板のCGIを自分で設置した場合は、そのCGIにたいいて「HTMLタグを有効にするかどうか」の設定がある。有効にすると、URLが自由に貼り付けられるので、無効にしておいたほうがいい。また、ここで紹介するサイトを活用して、自分のサイトにブラウザチェッカーを組み込むこともできる。



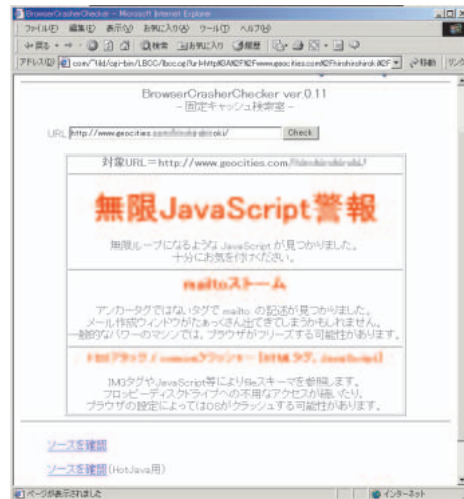
【BrowserCrasherChecker ver.0.11】

Jump lightning.prohosting.com/~fild/cgi-bin/LBCC/lbcc.cgi?

① 上記の「BrowserCrasherChecker」サイトにアクセスし、自分のサイトの掲示板に張られたURLをURL入力窓に入れて、「Check」を押す。または、ブラウザーのアドレス入力欄で、URLの最後の「?」に続けてチェックしたいURLを入力すれば、直接サイトの安全確認ができる。



② 本誌のサイトをチェックしてみた。ここで「危険はほとんどないと思われます」と表示されればほぼ安全だ。



③ 危険なサイトをチェックした例。このサイトの場合は二重三重に危険な仕掛けがされているようだ。ここまであからさまなのは実際のブラウザであるという点で間違いないが、ブラウザチェッカーがまれに誤動作をすることもあるので、最終的にはソースまでチェックする必要がある。そうはいても、ブラウザのチェックはやっておくに越したことはない。



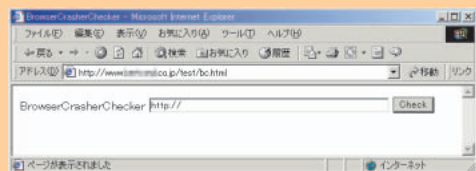
「ブラウザチェッカー」をサイトに組み込む

「BrowserCrasherChecker ver.0.11」はCGIとして外部からも起動できるため、自分のサイトにブラウザチェッカー機能が組み込める。掲示板に怪しい書き込みが目立つようならば、訪問者自身がチェックできるように、チェッカーをサイトに組み込むことも検討しよう。

ブラウザチェッカーを組み込みたいHTMLファイルに以下の記述を加えるだけで、このようなブラウザチェッカーの窓ができる。訪問者が自由に使えるよう、案内文を入れておくのもいいだろう。

HTMLタグ

```
<FORM action="http://lightning.prohosting.com/ fild/cgi-bin/LBCC/lbcc.cgi" method="GET">
  BrowserCrasherChecker <INPUT type="text" name="url" size="60" value="http://">
  <INPUT type="submit" value="Check">
</FORM>
```



更新作業をラクにしたい!

ウェブ管理者にとって、更新状況を正確に訪問者に伝えることは重要な問題だ。でも更新のたびにHTMLを編集するのは面倒な作業なので、そんな場合はCGIやオンラインソフトを利用して簡単に更新状況を伝えよう。

津田大介

更新状況をすぐにアップ



【簡易履歴板】

作者：ネットサーレスキュー
Jump www.rescue.ne.jp

ホームページの更新状況を訪問者に伝えるには、「更新履歴」というコーナー（HTMLファイル）を作って、そこにページのどこを更新したのかを細かく書くのが一般的。とはいえ、いちいちHTMLファイルを作ってFTPでアップロードする……これは意外に手間になる。その手間を省きたい人におすすめなのが、CGIを使ってウェブ上から更新情報を書き込む方法だ。「簡易履歴板」を使えば、更新状況のHTMLファイルをFTPでアップロードすることなく、更新履歴を残すことができる。

```
crypt.cgi
1行目 #!/usr/local/bin/perl
利用しているプロバイダーのPerlのパスに変更する。
```

```
history.cgi
1行目 #!/usr/local/bin/perl
利用しているプロバイダーのPerlのパスに変更する。
```

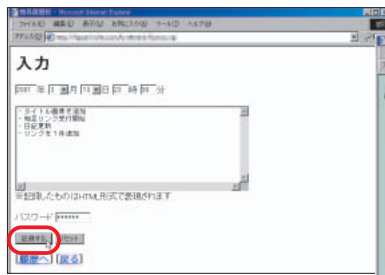
2 CGIとHTMLファイルをFTPソフトを使ってサーバーにアップロードしてAのようにパーミッションを変更する。これは初期設定のときに一度だけやればよい。

1 ウェブサイトにアクセスして「crypt.cgi」と「history.cgi」「history.html」をダウンロードする。「history」というフォルダー（ディレクトリー）を作ってまとめてそこに入れ、ダウンロードした「crypt.cgi」と「history.cgi」を自分のプロバイダーの環境に合わせて左下のリストのように修正する。なお、「history.html」は任意のHTMLファイルでも構わないが、ここでは、ダウンロードしたhistory.htmlの例をそのまま使って説明する。

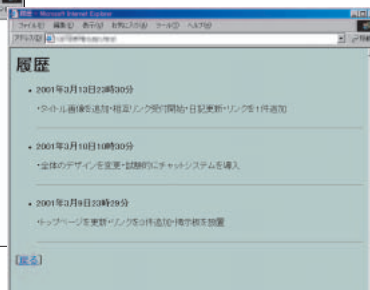
A

パーミッションの設定値 cgi-binに設定した例

```
cgi-bin/
├── history/ ディレクトリーを作成
│   ├── history.cgi [ 755 ]
│   ├── history.htm [ 666 ]
│   └── crypt.cgi [ 755 ]
```



3 ブラウザーで「history.html」にアクセスする（「http://www.xxx.com/cgi-bin/history/history.html」のように入力する）と簡易履歴板が表示される。更新の日時をプルダウンメニューから選び、更新情報を掲示板のように書き込んでパスワードを入力する。最後に「記録する」をクリックすれば自動的にHTMLファイルがウェブ上に生成される。



4 履歴が表示される。更新情報はなるべく具体的に書いてあるほうが訪問者もわかりやすい。

リンク切れを見逃さない

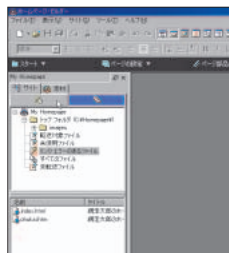


【ホームページ・ビルダーV6】

Jump www.jp.ibm.com/software/internet/hpb/



<CD-ROM 図>
Trial Win Hpb_ver6



ホームページ・ビルダーV6を起動後、「サイト」タブをクリックし、「リンクエラーのあるファイル」をクリックすれば、自動的にリンクエラーのあるファイルを見つけてくれる。

「孤島発見器」「LinkSonar」

Jump hp.vector.co.jp/authors/VA014575/chicchi/

ホームページを更新している際によくあるミスが、何かの拍子にファイルを削除してしまい、リンク切れのファイルが存在してしまうことだ。こうしたミスを防ぐためにも、アップロードする前にページ内のリンク切れを発見してくれるソフトやツールを利用しておこう。

ホームページ作成ソフトの「ホームページ・ビルダーV6」には、こうしたリンクエラーのあるファイルを見つける機能がある。また、フリーソフトウェアでもページ内部のリンクエラーを見つける「孤島発見器」や外部へのリンクエラーを見つける「LinkSonar」などがあるので、これらをうまく活用したい。

METAタグを使って更新情報を見つけやすくする

ページの更新状況をMETAタグに書き込んで「WWW」などの更新チェッカーでヒットしやすくする方法もある（<META NAME="WWW" CONTENT="更新日時、更新内容など">と記述しておく）。こうしておけば常連さんがいちいちブラウザーでアクセスしなくても、WWWでチェックしてもらえばどんな更新が行われたかが一目でわかる。余裕があるならば、METAタグに更新状況を書き込んでおこう。

LYCHEE SOUNDS - Auxtracker-	22598	200
name B B S	39000	200
mamegakuのページへようこそ!	459	200
NTONOSAKI's Personal Station	2094	200
U!Neo-logue inc. Web	14884*	200
Peeping Pl	4575	200
PUPPET BOARD	15727	200
PUPPET MODE	3469	200
SMALLNEWS!BAMBI!	55157	200
SMALLNEWS!NETWORK!	111221	200

【WWW】

Jump www.nakka.com/www/

連絡手段を充実させたい!

サイトの訪問者とのコミュニケーションと言え、掲示板がメインだが、問い合わせを受け付けたりリアルな会話を楽しめたかったりするときにはメールやチャットも必要だ。掲示板より一歩進んだコミュニケーションツールをサイトに盛り込もう!

菅野 哲

メールアドレスを公表せずにメールを受け取る

サイトの訪問者にメールを送ってもらうためには、mailtoタグを使えばHTMLファイルでも簡単にできる。ただし、これだと管理者のメールアドレスを知られてしまう。

そんなときは、ホームページ上にメール送信フォームを設置するといいたいだろう。自分のメールアドレスを隠したまま、ブラウザ上で簡単にメールを送れるようになる。一部のプロバイダーでは、メールフォームをあらかじめ用意しているので、そちらも活用したい。

```

postmail.cgi
1行目 #!/usr/local/bin/perl
    利用しているプロバイダーのPerlのパスを変更する。

60行目 $prog_type = 1;
    利用するメールプログラムの設定。どのタイプを使っているかはプロバイダーのサイトで確認してほしい。sendmailなら「$prog_type = 1;」を、Blatjなら「$prog_type = 2;」とする。プロバイダーがメールプログラムへのアクセスを許可していないかったり、sendmail、Blatj以外のメールプログラムを使っていたりする場合は、このCGIは動作しない。

68行目 $mailprog = '/usr/lib/sendmail';
    利用しているプロバイダーのメールプログラムの場所（パス）を指定する。詳細はプロバイダーのサイトに掲載されている。

71行目 $mailto = "xxx@xxx.xxx";
    フォームからメールを送りたいアドレスを設定する。

79行目 $subject = "フォームメール";
    フォームから送られるメールの件名を設定する。なお、初期値のままでも動作に支障はない。

93行目 $back = './index.html';
    メール送信後に戻るページのURLに変更する（http://~で設定してもいい）。
    
```

① CGIを上記のURLまたは付属CD-ROMからハードディスクにコピーし、圧縮ファイルはLhasa (CD-ROMに収録) などを使って解凍しよう。収録されているファイルはAになる。

② CGIスクリプトを自分の利用している環境に合わせて書き換える。ウィンドウ付属の「メモ帳」などのテキストエディターを使用して、以下の箇所を変更しよう。メールフォームに表示したい項目は「postmail.html」を開いて（画面B）カスタマイズする。

【PostMail】

作者：KENT

Jump www.kent-web.com



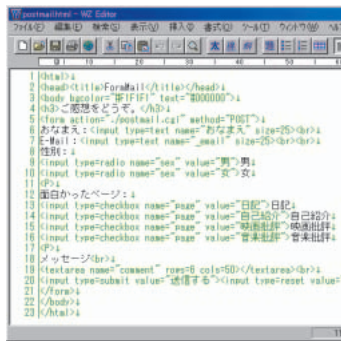
<CD-ROM A>
Magnavi Ip0105 Cgi KENT postmail.lzh

A パーMISSIONの設定値 cgi-binに設定した例

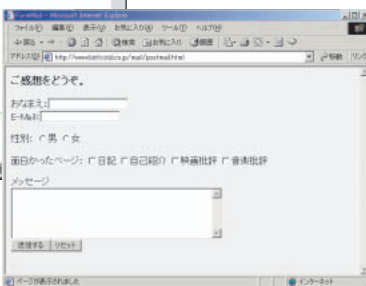
```

cgi-bin/
├── mail/
│   ├── ディレクトリーを作成
│   ├── postmail.html
│   ├── postmail.cgi[755]
│   └── jcode.pl [644]
    
```

③ CGIとHTMLファイルをサーバーにアップロードする。CGIはAを参考にパーMISSION（属性）の設定を変更する。



B



④ ブラウザーから「postmail.html」にアクセスする（「http://www.xxxx.xxx/cgi-bin/mail/postmail.html」のように入力すると、メール送信フォームが表示される。

オンライン状態がひと目でわかる

ICQを利用している場合は、サイトに簡単なHTMLタグを貼り付けることで、あなたがインターネットにいてすぐに応答できる状態にあるということを、サイトの訪問者に通知できる。いつでもユーザーが連絡の取りやすい環境にしておくのもうれしい気遣いだ。

オンライン状況を告知したいHTMLファイルに、以下のタグを貼り付ける。

```

```

ここで、イメージ番号は1から9までの数字を入力する。数字によって表示されるアイコンが異なり、右の例は①と②だ。

<注意> HTMLのソースを見るとICQ番号が訪問者に知られてしまうので、専用の別番号を用意するなどの工夫をして活用しよう。



【ICQ】

Jump www.icq.com/features/web/indicator.html



ホームページの置き場所に工夫したい!

その6

ページが重くてなかなかアクセスできなかったり、プロバイダーのサーバーが不調でウェブを見られなかったりといった問題は、自分でサーバーの管理に気を配れば解決できることも多い。たとえプロバイダーのホームページスペースの間借りでも、ちょっとした工夫で訪問者の快適度はグッとアップするのだ。

津田大介

画像や音楽は別サーバーで管理



自分のサイトで大量の画像や音楽ファイルなどを扱っていると、使えるホームページスペースがあっという間にいっぱいになってしまう。だからといって、コンテンツを削るのは忍びない…。そんな場合は画像や音楽ファイルが入ったページを別のサーバーで共有するといい。有料のレンタルサーバーと契約す

るのが一番の解決策だが、容量が大きめの無料ホームページサービスを併用するのもいいだろう。このとき、海外サイトを選ぶとアクセス速度は多少落ちるかもしれないことは念頭に入れておこう。

無料ホームページのスペースに画像ファイルのインデックスページを置くようにして、

互いのサーバーでリンクを張るような関係にしておく。2つのホームページスペースでファイルを分散させておけば、本来のサーバー容量も有効に使える。なお、無料ホームページサービスを利用する場合は、トップページの更新を怠らないように注意しよう。

容量の大きな無料ホームページサービス

サービス名	kJump	ホームページ容量	CGI利用
U-HIP	www.u-hip.com	100MB 1	
Cyber Space Community	www.csc.ne.jp	無制限	
freeweb	www.freeweb.ne.jp	50MB	
ロケットビーチ	www.rocketbeach.com	30MB ~ 無制限 2	
使える.net	www.tsukaeru.net	50MB	
freejpn.com	www.freejpn.com	100MB	
トクトク	tok2.com	無制限	
HostMyCGI.com	www.hostmycgi.com	無制限	

ほとんどがページ上部に広告が表示される。「freeweb」はポップアップ広告あり
1 クリエイター限定で審査あり、パナー広告なし。審査なしのサービスは20MB
2 登録カテゴリーによって容量が異なる。4月2日より登録受付の再開予定

(例)

```
<IMG src=
"http://画像を置いてあるページのURL/
画像ファイル.gif" width=45
height=45 alt="画像">
```

リンクの張り方は上のタグをそれぞれ互いのHTMLファイルに埋め込むだけだ。無料ホームページサービスを利用する場合は、トップページを毎月更新しないと自動的にファイルを削除されてしまうことがあるので、相互関係をうまく保って更新しよう。

トラブル回避のためにミラーサイトを用意

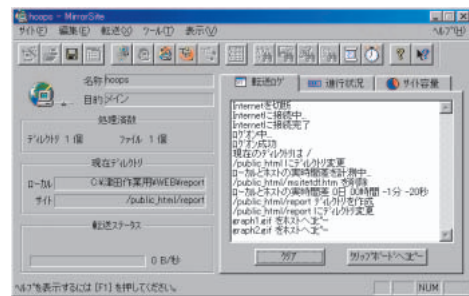


プロバイダーのサーバーが不調になるなどで、自分のサイトにまったくアクセスできなくなることがある。また、アクセスが非常に多いうえCGIなどを駆使したサイトは、システムに負荷がかかってサーバーがダウンすることも多い。予期せぬトラブルに備えるため、メインのサイトとは別のサーバー（無料ホームページやレンタルサーバーなど）にまったく同じ内容をコピーしておく「ミラーサイト」を用意すると便利だ。普段からトップページでミラーサイトの所在を明らかにしておけば、トラブルが起きたときでも訪問者を自分のサイトに導ける。

【MirrorSite】

作者：ike (シェアウェア1,900円)

kJump homepage1.nifty.com/ikehouse/softlib/mirrorsite.html



特定のサイトのミラーサイトを自動的に作ってくれるソフト「MirrorSite」。簡単な操作でミラーサイトの作成やホームページの更新が行える。

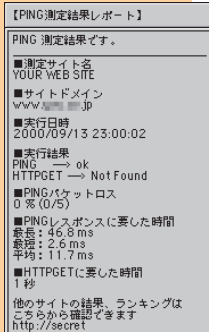
パフォーマンスチェック



【サーバーチェックドットコム】

kJump www.svcheck.com

自分のサイトのパフォーマンスを客観的に知りたい場合は、自分のウェブサーバーのロード時間などを計測してくれるサービスを利用するという手もある。「サーバーチェックドットコム」は、毎日3回、pingの測定結果をメールで知らせてくれるパフォーマンスチェックのサービスだ。最初の半年は無料で使い、その後も6か月につき3,000円とリーズナブルな料金で利用できる。レンタルサーバーを契約しているような場合は、あまりにも動作が遅ければ乗り換えの目安にもなる。



サイトの人気度を知りたい!

手塩にかけて育てたサイトがどれだけのユーザーに人気があるかというのは誰でも気になるところ。ここでは「人気」を客観的に測れるウェブサービスを紹介しよう。 津田大介

バナー広告で一石二鳥

最近さまざまな人気サイトで見かけるのがサイト内に置かれている「バナー広告」だ。これは、訪問者がバナーをクリックすることでそのサイトのオーナーに広告料が入るといった仕組みになっている。基本的にはクリックされた数だけしか入金されない「成功報酬型」がほとんどだが、ウェブ管理者が配信するバナー広告の種類を選べるなど、きめ細やかなサービスを実施しているところも多い。人気がある個人向けバナー広告サービスとしては「ValueClick」「CyberClick」などが有名だ。アクセス数の増加がバナークリック数の増加につながると一概には言えないが、人気のあるサイトならばレンタルサーバー代程度は毎月稼げるという話もある。人気度がわかるうえにお金も稼げてまさに一石二鳥。サイト作りのモチベーションを上げる意味でも申し込む価値は十分にあると言えるだろう。



日本におけるバナー広告サービスの草分け的存在「ValueClick」。通常の掲載収入は1クリックにつき15円。クリック数が多くなるにつれて単価も高くなっていく。

【ValueClick】

Jump www.valueclick.ne.jp



おもな個人向けバナー広告サービス

サイト名	Jump	報酬算出形式
A8.net	www.a8.net/a8/	成功報酬型/クリック保証型
Access Click Ranking	www.access-nw.com/ranking/	クリック保証型/表示回数型
Active Click	www.activeclick.net	成功報酬型
AD4Commerce	www.ad4commerce.com	成功報酬型/クリック保証型/表示回数型
Bannner.com	www.bannner.com	成功報酬型/クリック保証型
click-click.com	www.click-click.com/dstation/	クリック保証型
Custom Click	www.customclick.ne.jp	クリック保証型
CYBER CLICK!	www.cyberclick.net	クリック保証型
DATACOM	japan.datais.com	成功報酬型/クリック保証型/表示回数型
JCB パーチャル代理店	www.jcb.co.jp	成功報酬型
LinkShare Japan (近日開始)	www.linkshare.ne.jp	成功報酬型
MEDIA CLICK	click.mediajapan.co.jp	クリック保証型
Natural Click	www.naturalidentity.co.jp	クリック保証型
Olive! Click	pr.fun.tol.ne.jp	クリック保証型
SuperClick	superclick.to	クリック保証型
The 広告.com	www.the-koukoku.com	クリック保証型
Value Click	www.valueclick.ne.jp	クリック保証型
VALUE COMMERCE	www.valuecommerce.ne.jp/ptn/	成功報酬型/クリック保証型/表示回数型
二人参客	www.ninin.com	成功報酬型

ウェブサイトを評価してもらおう

サイトの人気というのは単にアクセス数だけでは測れない部分も多い。そんなあいまいな部分を数値化して「格付け」してくれるのが「Webサイト格付けセンター」だ。このサービスは、サイトのジャンル、トップページのアクセス数、アクセスピーク時間帯などの情報を統合的に評価する独自開発の「Nestimaエンジン」を使ってサイトを自動的に評価してくれるというもの。評価を示す格付けの等級はAAAからDまでの10段階。

市場到達度、今後の発展性など、個別の格付け項目がグラフ形式で表されるのもユニークだ。テストをするための項目の入力は簡単だが、中身はかなり本格的。広告マーケティングや今後の運営指針として利用してみるのも悪くないだろう。

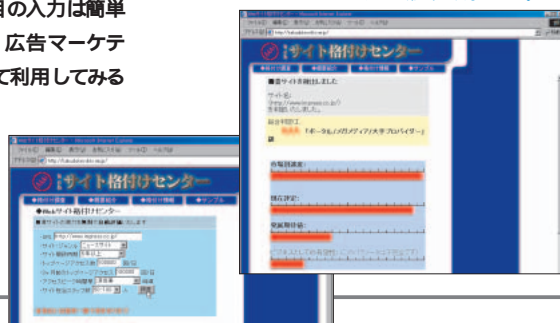
① ウェブサイトの格付けはトップページから行える。URL、ジャンル、サイト開設時期などのデータをできるだけ客観的に入力して「調査」ボタンをクリックしよう。



【Webサイト格付けセンター】

Jump kakuduke.nikki.ne.jp

② 総合判定のほか、3種類 + 1種類の個別の格付けがグラフ形式で表示される。



ユーザーに配慮したウェブサイトを作りたい!

その8

アクセス数をアップさせるために、基本に立ち返ってウェブサイトのデザインについて考えてみよう。ここでは、ウェブユーザビリティとアクセシビリティの概念を用いて、具体例を挙げながらサイトの「見やすさ、使いやすさ」のポイントを解説する。チェックポイントを参考に自分のホームページを確認しよう。なお、有名サイトを例に説明しているが、いずれも個人サイトでも十分活かせるテクニックだ。

若林龍成(ビービット www.bebit.co.jp)

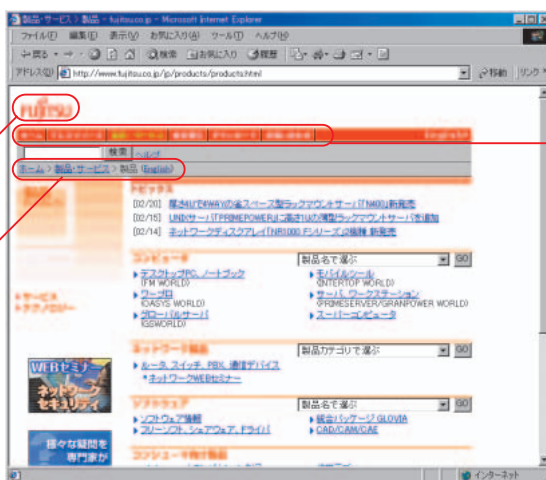
ナビゲーションの位置に注意!



ユーザーが迷子にならないように、ナビゲーションを常に同じ位置に、同じデザインで置こう。そうすることにより、ウェブサイト全体に統一感が出て、イメージがきちんと伝わるようになる。

全ページに一貫したロゴマークがあり、ロゴマークはホームページリンクが張られている。迷ってもここをクリックすれば、ホームページへ簡単に戻ることができる。

階層を「パンくずメニュー(ナビゲーション)」で表現しているため、迷子になりにくく上位の階層にも移動しやすい。



サイト全体を通して一貫したナビゲーションを使用しているため、統一したイメージを表現でき、現在地が把握しやすい。

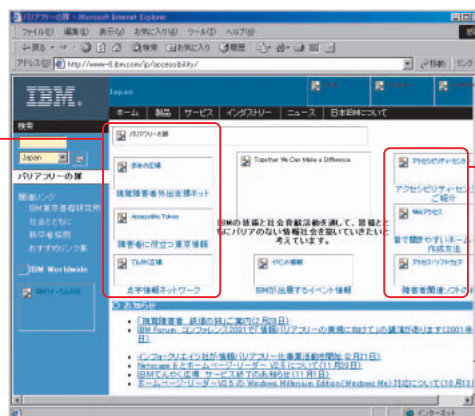
Check Point

- ・サイトのトップページ(ホームページ)へのリンクはあるか
- ・直接の上位ページへのリンクはあるか
- ・基本機能(検索、ヘルプなど)へのリンクはあるか
- ・ナビゲーションを混乱させる不要なリンクはないか
- ・スクロールを必要とする長いページには、ページ最上部とページ最下部にナビゲーションを付けているか

画像には説明テキストを付ける

「ALTタグ」で画像の説明文を書いておくと、万が一ブラウザの設定がおかしかったり、または何らかのエラーで画像が表示されなかったりしても、ユーザーは次のステップに進むことができる。また、目が不自由な人にも使いやすいサイトになる。

「ALTタグ」で説明文を書いているので、画像が表示されなくても、何が表示されるはずだったかすぐに想像がつく。



「ALTタグ」で説明文を書いていると、音声ブラウザで読み上げることができ、目が不自由な人にも使いやすいサイトになる。

Check Point

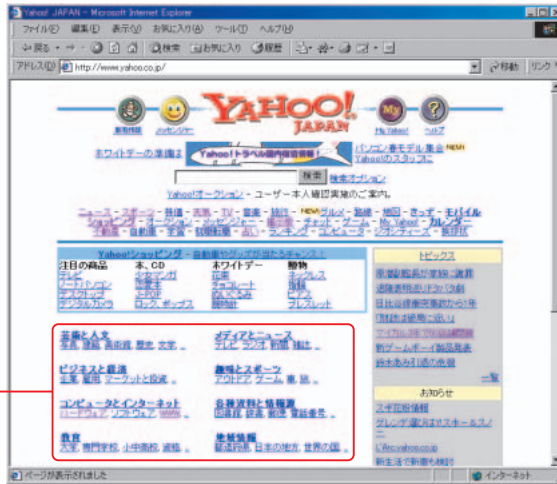
- ・各画像にはALTタグを用い説明テキストが付けられているか
- ・ALTタグの説明文はわかりやすいか

「ALTタグ」をわかりやすく説明するため、画像を表示しないモードでページを読み込んだもの

文字色と背景色に気をつけよう



むやみにテキストに色を付けたり、背景との間にコントラストがなかったりすると、文字が読みづらくなる。また、スクロールテキストやブリンクテキストも避けよう。



白い背景に青い文字を使って、コントラストを出しているため、文字が読みやすい。

3月13日に製品レビューを更新しました。

3月13日に更新しました。

加工した文字を採用するサイトも多いが、ブリンクテキストを用いると広告に見えてしまう可能性があるため注意したい(上は「製品レビュー」の文字がブリンクテキストになっている例)。このほか、スクロールテキストなどの動く文字も控えたい。

Check Point

- ・テキストの色とその背景の間にはっきりしたコントラストがあるか
- ・段落のテキストは左そろえになっているか
- ・リンクではない下線付きテキストが使用されていないか
- ・スクロールテキストやブリンクテキストを使用していないか

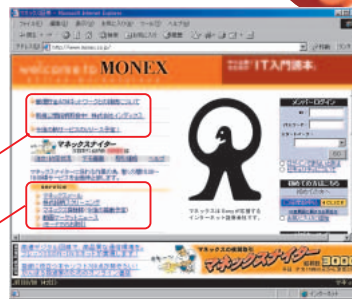
情報の鮮度を保とう



更新した情報でユーザーにとって重要なものは、サイト内で目立つようにする。また、特に更新がない情報でも、重要なものはスクロールが不要な目に付きやすいところに配置しよう。

新しい情報の中でも特に重要な情報は、目立つ位置に置く。

特に更新がなくてもユーザーニーズの高い情報はスクロールしなくてもいいような目に付くところに置く。

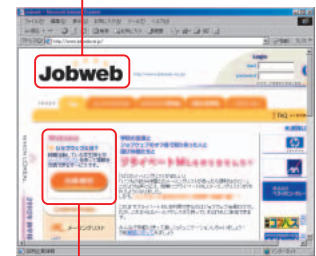


トップページはサイトの顔だ!



トップページはサイトの顔だ。サイト名を明示し、そのサイトが何を提供しているか簡単に説明する必要がある。ナビゲーションも必須。

サイト名と会社名を明示してあるので信頼感を与える。



このウェブサイトがユーザーに何を提供しているのか、トップページ(ホームページ)で的確に説明している。

Check Point

- ・サイト名がはっきり表示されているか
- ・サイトを法人が運営している場合、会社名が明記されているか
- ・ナビゲーションボタンなどがあるか
- ・サイトの内容を表すキャッチフレーズがあるか
- ・よく使う機能へのショートカットはあるか

簡潔な文章を心がける



印刷された文章と比べると、モニター上の文章は読みづらい。なるべく少ない文字数で言いたいことを伝えよう。

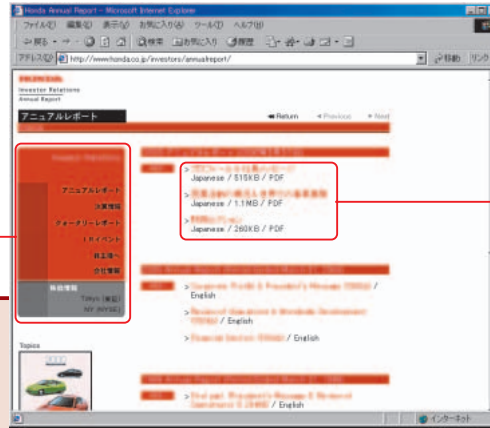
最小限の文字数で内容を表現しているので、斜め読みができる。リンク先の内容の想像もつく。

簡潔な文章で、モニター上でも読みやすい。

推測しやすいリンクにする

リンク先の内容が推測できないと、ユーザーが次のステップに進めない可能性がある。また、重いファイルやプラグインが必要なファイルにリンクを張るときは、内容を明記しておこう。

リンク名が適当なので、リンク先の内容を推測しやすい。



ファイルサイズと形式が明記されているので、ダウンロードに予想外に時間がかかったり、ファイルが開けなかったりといったトラブルに陥る可能性が低い。

Check Point

- ・リンクを選択して大きな画像を表示したりファイルをダウンロードしたりする場合、リンクにその画像やファイルのサイズが付記されているか
- ・リンクを選択してファイルをダウンロードする場合、形式が付記されているか
- ・切れているリンクがないか
- ・リンクの説明はわかりやすいか
- ・リンクを選んだ際に、新ウィンドウを開きすぎているか



まとめ

ウェブ管理者への道

さらにステップアップするには



以上、CGIをはじめとして「ウェブ管理者」への道しるべとなるさまざまなテクニックを紹介してきたが、CGIはインターネットのなかでも古い時期から活用されてきた技術だ。

日進月歩のインターネットの技術のなかで、さらに新しい技術が続々登場しているので、そのうち特に「ウェブ管理者」としてステップアップするための技術を紹介しよう。

すでにかなり普及している**CSS**(Cascading Style Sheet)はウェブデザインに必須のものになりつつある。従来のHTMLは「構造」と「見栄え」の両方を意味したものの、データとしての見通しが悪かった。この点を反省して、統一的な「構造と見栄えの分離」を目的に、おもに見栄えをコントロールしてHTMLから呼び出されるCSSが生まれた。この「構造と見栄えの分離」をさらに進めたのが、**XML**(eXtensible Markup Language)だ。XMLは、CSSとは逆に、データ(文書)の構造を表現するの

に特化しており、見栄えの部分はCSSで設定する。

なお、HTMLもXMLも同様に、SGML(Standard Generalized Markup Language)というものを起源としているという点では、兄弟といえる言語だ。

以上がHTMLの延長として生まれたものだが、一方、CGIと似た技術でPHPというものが急発展している。

PHPとは、Hypertext Pre-processorの略で、HTML埋め込み型のサーバーサイドスクリプト言語だ。機能的にはCGIと同様で、さまざまな作業をサーバーにやらせるための言語だが、CGIと違ってスクリプトをHTML内に記述できるのでCGIより簡単なのが特徴だ。

PHPはウェブサーバーで広く利用されているApache用のスクリプト言語ということもあり、活用できる場面は多い。さらに、サーバーに与える負荷がCGIより軽いなど、CGIに比べてのメリットも多く、今後さらに盛り上がりと思われる。ウェブ管理者ならばぜひともチェックしておきたい。

ここまで来ると、最終的にはウェブをデータベースのように使いたいということもあるだろう。そのような場合はPHPやCGIから、**SQL**(Structured Query Language)を呼び出すことになる。SQLとはリレーショナルデータベースを記述するための言語で、製品としてはOracleが特に有名だが、MySQLやPostgreSQLなどのフリーのSQLもある。

ここまでやるのは技術的になかなか難しいが、今後、本誌でも積極的に取り上げていく。乞うご期待!





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp